

参加者
募集

19世紀写真の識別と保存修復

イタリア人写真保存修復家 サンドラ・ペトリロ女史による
解説＋ワークショップ＋レクチャー

主催：特定非営利活動法人 文化財保存支援機構関西支部・京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター共催



10月25日(土) 募集: 15名
受付開始 9:30 開演 10:00 人数: 15名
(16:00 終了予定)

京都テルサ 第4会議室

京都市南区新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ内
TEL 075-692-3400 (代)

参加費用： 会員 1万円 / 非会員 1万2千円
(資料代を含む) 会員学生 9千円 / 非会員学生 1万円

日本では、古い文化財や資料が多く残されているせいか写真の保存や修復にはまだまだ光があてられていません。しかし、日本にも数多くの写真が残されています。

世界で最初の写真技法ダグレオタイプがフランスで発表された1839年から僅か9年後にはカメラが輸入され、8年後にはそのカメラで島津斎彬の肖像写真（現在国の重要文化財）が撮影されています。幕末には長崎と横浜で「写真館」が営業を始め、明治にはいると、「写真」は「断髪」「牛鍋」などと並んで文明開化を代表する言葉となりました。当初は外国人や金持ちが対象でしたが、撮影価格が下がって庶民にも爆発的に広がっていきます。また、スタジオでの写真だけでなく、風景や

風俗を写した写真は外国人のお土産として、輸出品として当時の記録に出てくるほどです。

このように19世紀の写真は様々なところに残されてきましたが、現在のゼラチン銀現像印画紙とは全く違ったものがほとんどです。写真は化学的に画像が形成されているため、保存するためにはその写真がどういった素材で、どういった化学処理を経て作成されたものかを知る必要があります。このレクチャー/ワークショップでは、そうした19世紀写真の各技法に基づいた写真を識別する実践的な知識とノウハウを教えます。また、最後のプレゼンテーションでは横浜写真の草分けである「ベアトの写真帖」の保存修理についてお話しします。

内容

パート1 (午前) :

19世紀写真について
—ポジ (=プリント) に焦点をあてて—

- ・ 塩化銀紙、鶏卵紙、ゼラチン銀プリント、コロジオンプリント、青写真、プラチナ/パラジウムプリント、カーボンプリント、ガムプリント等の各プロセスの歴史と技法についての解説と識別方法

パート2 (午後) :

- ・ 実際の各プロセスの識別ワークショップ (サンドラ・ペトリロ女史持参のコレクションを使って)
- ・ 19世紀鶏卵紙アルバム
「Vue du Japon」 (attributed to Felice Beato, c.1870) の処置と保存上の問題についてのパワーポイントプレゼンテーション
- ・ 質疑応答

サンドラ・ペトリロ女史 (SANDRA MARIA PETRILLO)

写真保存修復家

写真の専門研修や美術史修士号取得後、IFROAで写真に関するアートコンサベーションの修士号を取得。※ヨーロッパ各地で写真の保存や修復の仕事を行なう。近年は専門家育成にも力を入れ、2006年には、ワシントンで「写真と予防的保存に関するワークショップ」を他の専門家と行なう。写真の保存修復に関する論文等が多数ある。

JCP
kansai

特定非営利活動法人
文化財保存支援機構 関西支部
URL: <http://www.jcpnpo.org>

参加申し込みは FAX/E-mail にて下記までお願いいたします。
〒603-8123 京都市北区小山下花ノ木町 35-6
TEL 075-334-8450 FAX 075-334-8451
E-mail: yamaoka@jcpnpo.org